

大和川流域は奈良盆地の水を集め、亀の瀬の手前で1本の河川 になり大阪平野を西流します。

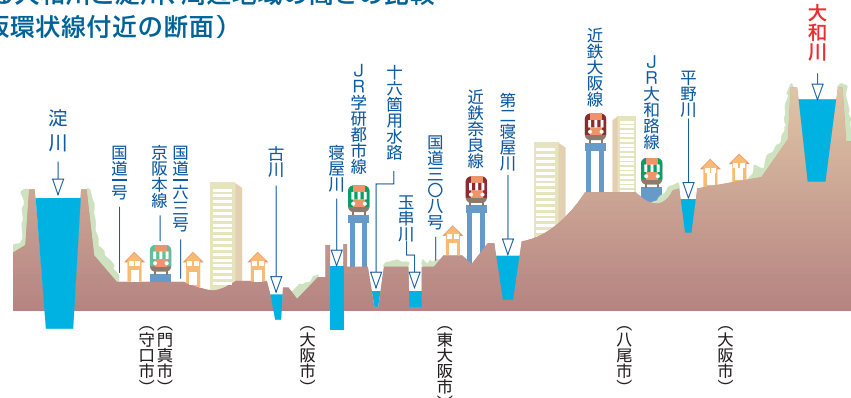
大和川は、笠置山地に源を発し、奈良盆地を放射状に流れる大小の支川を合わせ、奈良盆地の唯一の出口である亀の瀬を経て大阪平野を貫流し大阪湾へ注ぎます。

大和川流域は古より多くの人々が住み、奈良に都が置かれていた頃は舟運が栄え、万葉集にも多くの歌が詠まれていました。

大和川は西日本の経済・文化の中心である大都市・大阪と県内の86%の人口が集中する奈良盆地を流域に持ち、ひとたび台風や豪雨が起きれば甚大な被害が発生する危険性を持っています。

現在、大和川流域では洪水が起きた場合に想定される氾濫区域に暮らす市民の数は約400万人にのぼります。そのため、大和川流域では、流域の特性に応じた治水対策を講じ、流域全体の安全向上に努めています。

■大阪平野における大和川と淀川、周辺地域の高さの比較  
(主要地方道大阪環状線付近の断面)



■大和川諸元

流域面積	1,070km <sup>2</sup>	全国土面積377,719km <sup>2</sup> 利根川16,840km <sup>2</sup> 石狩川14,330km <sup>2</sup> 信濃川11,900km <sup>2</sup> 淀川8,240km <sup>2</sup>	流域市町村	38	21市15町2村
幹川流路延長	68km	信濃川367km 利根川322km 石狩川268km	流域内人口	約215万人	全国人口 1億2,630万人 (約2%)
年間平均降雨量	約1,300mm	全国平均 約1,700mm	はん濫区域内人口	約400万人	全国はん濫区域内総人口 5,165万人 (約8%)
年間平均総流出量	8.1億m <sup>3</sup>	柏原地点 (平成10年~平成19年) 豊水 24.25m <sup>3</sup> /秒 平水 14.20m <sup>3</sup> /秒 低水 10.33m <sup>3</sup> /秒 濁水 6.28m <sup>3</sup> /秒	はん濫区域内資産	約69兆円	全国総資産 1,003兆円 内はん濫区域内には 663兆円 (約10%)

付替えから300年。さまざまな影響を及ぼした大和川下流の付替え工事

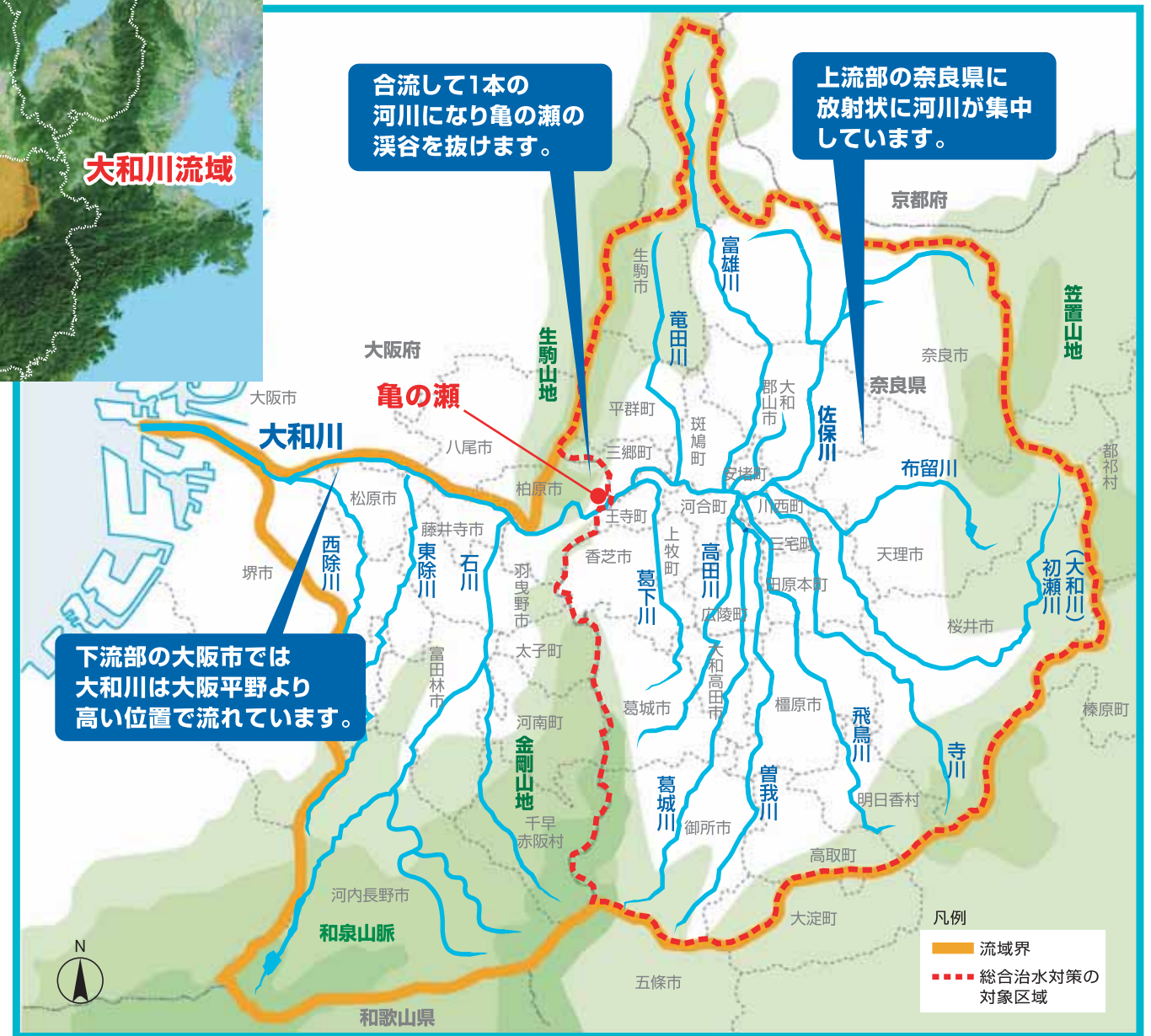
江戸時代、元和から元禄にかけ河内平野では大水害が十数回も起こりました。そこで河内国今米村(現在の東大阪市)の庄屋の中甚兵衛らを先頭にたびたび川の付け替え運動が起こる一方、新流路にあたる地域からは反対運動も起こりました。

しかし宝永元年(1704)に、江戸幕府によって、大和川は現在の流れに付替えられます。当初、3年と思われていた工事は、8ヶ月足らずで完成。この付け替えにより、旧大和川の川底は、鴻池新田に開発される一方、新大和川の流域になった地域では、農業用水路や河川交通の変更、河口部での土砂堆積などが生じ、大阪周辺一帯の地域に様々な影響を及ぼしました。



■大和川流域の特徴と総合治水対策の対象区域

総合治水対策は奈良県内の大和川流域で行っています。



■目次

総合治水を実施している背景について

- 大和川流域の概要……………P1~2
- 奈良盆地の特性……………P3~4
- 奈良盆地の浸水被害……………P5~6

大和川の総合治水対策の概要

- 総合治水対策とは……………P7~8
- 大和川流域整備計画……………P9~10
- 大和川流域の総合治水対策……………P11~12
- 流出抑制対策……………P13

総合治水対策の具体例

- 治水対策……………P14
- 流域対策……………P15~16
- 流域対策の整備状況……………P17

その他の取り組みについて

- 大和川流域の浸水実績図……………P18